

元気な会社 選ぶ眼を

大手企業の採用活動がほぼ一段落する5月。内定を得られず、「就活やめちゃおうか」と弱気になる学生も少なくない。でも、ちょっと待った。知名度は低くても、規模は小さくても、若い人材を求める元気な会社が、「会社の姿を学生に伝えにくい」と悩みつづ、これからは本番の採用活動を始めている。

(水野雅恵)

中堅・中小の採用本番 「活躍できる場は広い」

即戦力重視とみられがちなベンチャー企業や中堅・中小企業だが、新卒採用に力をいれている企業は少なくない。組織の活性化や新鮮な発想、将来の幹部候補生育成という理由は、大企業と同じだ。

99年設立された、正社員30人のITベンチャー企業「ガイアックス」は、昨年度から新卒採用を始めた。採用を担当するIT事業開発部、木村智浩さん(24)はその1期生。入社1年でプラン作成から予算取りまで任せられた。「形の見えないものにチャレンジし、新しい事業を作っていくのがベンチャー企業。他社経験のない新

卒の方が、スムーズになじめる部分もあるのでは」と話す。

ただ同社とは違って、多くの中堅・中小企業は、「新卒を採用したくてもできない」という壁に突き当たっている。東京商工会議所が昨年末、実施した新卒者採用動向調査によると採用を予定していた201社のうち予定人数を確保できなかった会社は前年比13・

8割増の44・3%にのぼった。

かつて学生は求人雑誌や大学の就職窓口で張られた求人票などで、関心のない企業の情報にもふれる機会があったが、関心企業だけの情報をピンポイントで探すネット就活が主流になり、状況が変わった。同会議所人材・雇用情報センター所長の橋本昌道さんは「知名度は低くても実績のある企業の情報が学生に伝わりやすくなった。どうやって自社をPRし、応募につなげるかが悩み」。

が参加する中小企業家同友会全国協議会(中同協)は昨年、会員企業の共同求人情報サイト「Jobway」から、学生がエントリーできるようにした。自ら魅力を発信しようという狙いだ。この5月には、経営者と学生が直接話せる合同企業説明会を26都道府県で開く。「仕事を通じて開花する能力もある。ぜひ経営者本人に会って、いろんな仕事・会社を発見してほしい」と事務局次長の平田美穂さん。

法政大学大原社会問題研究所長の相田利雄教授(中小企業論)は「不況下でも業績を上げ、労働条件を改善した優れた中小企業の情報をもっと学生に伝えられるべきだ。いい会社でいい仕事、ではなく、いい仕事ができるいい会社、が時代の流れ。探し方別表参考Ⅱを間違えなければ、活躍できる場は大企業同様に広い」と就活生にエールを送る。

■ 中小企業を選ぶ基準は (相田利雄・法政大教授による)

- ①売り上げ、営業利益とも標準以上
- ②賃金水準が高く、休日が多い
- ③能力主義である
- ④社員の定着率が高い
- ⑤社内の雰囲気明るい
- ⑥他の企業にない特色、強みがある
- ⑦経営者が先見性・決断力・実行力を備え、社員・顧客を大事にする